

編集後記

(66 卷 第 11 号 2020 年 11 月)

今年の 4 月に京都大学医学研究科内に「がん免疫総合研究センター」が設置された。初代センター長は、言わずもがなの本庶 佑先生。最終的には癌免疫研究に関する基礎系 3 部門、臨床系 3 部門の計 6 部門から構成される予定で、現在、教授などの教官の選考が行われている。ノーベル賞受賞が決まる前は、企業からの寄付金でセンターを作るという企画が動いていたが、やはりノーベル賞効果は絶大で、文部科学省では教官ポストの純増と研究棟の建築費、実験機器の購入費まで支給されることが即決された。

研究棟は病院構内の設置が検討されたが、土地がたちまちには工面できないとのことで、基礎構内に作られることになった。基礎構内にも土地は余ってなく、予定されている土地には、今は卓球部の練習場所となっている旧解剖実習室がある。以前、卓球部の顧問をやっていた私としては、卓球部の今後が心配である。本庶先生が顧問をされていたテニス部の 2 面コートは、もちろんそのままである。

(小川 修)